

平成31(2019)年「正覚寺報」2月号

ご案内

お聴聞は、如来様の促しに遇いお念仏しつつお喚び声に遇わせて戴く大切な営みです。

皆様どうぞご縁にお会い下さいませ。

仏壮お聴聞の会 2月3日(日)20時～

仏壮恒例となったお聴聞の会です。皆様賑やかにご縁にお会い下さい。

仏婦例会 2月16日(土)19時半～

月に一度、如来様のお育てに合う大切な機会です。皆様賑やかにお参り下さい。

正覚寺永代経 3月2日(土)13時半～

永代経にはお馴染みの田淵幸響布教使様にご出講戴きます。正覚寺オリジナルの仏教讃歌“ふとあおぎみるおすがたは”の作曲者でもいらっしゃいます。童謡や歌い継がれた歌をも含めて胸に染み入る“演奏ご法話”が営まれます。

皆様にはお誘い合せ賑やかにお参り下さい。

報恩講のご縁

一月二日、御門徒のお内仏様にお参りの都度、「昨年のお報恩講は如何でしたか」とお訊ねしますと、皆様から次のような感想を戴きました。

「私は、お昼(大連夜)と夜(初夜)の二座、お参りました。深いところまでは分かりませんが、大変有り難くお聞かせ戴きました。」

「ご院さん、正覚寺では、毎年よい布教使さんをお呼んで戴き、有り難い御法話を聞かせて戴いています。これは、私らの誇りです。何も正覚寺の門徒ばかりではありません。よその御門徒さんもよろこんで戴いているのです。」

住職は、「御門徒さんに何とかしてお法りが伝わって欲しい」と念願して来ましたが、年明け早々これほど嬉しいことはありませんでした。

実は、今年の初夢は、曾てご指導戴いた「瓜生津隆真先生のお寺の御遠忌記念に『註釈版聖典』を戴いた夢でした。驚いたことに出版本の頁の六割までが全く新しく差し替えられていたのです。これは圧巻でした。私はこれを「唯今新たに取り組んでいる仕事を自信を以て進めるように」との励ましと承りました。

報恩講は、住職にとっても大きな契機となりました。実は東近江市甲津畑の藤澤信照先生のお寺「浄光寺」様では、毎月、ご本典の勉強会が開催されて丁度一年になったばかりでした。

11月はお挨拶までにお参りましたが、爾来、毎月継続参加することになったのです。梯和上の薫陶を受けられた藤澤先生のご講義を通して還相回向のご縁に遇わせて戴くためです。

1月の勉強会では、京都学派は石田慶和先生の師匠、武内義範先生の太行解釈は、宗教的象徴だとお聞かせに与りました。武内先生の学説は既に読んだことのある石田慶和先生の御書物に掲載されているお話でしたが、同じ趣旨のお話を曾てご指導戴いた瓜生津先生から承ったことを思い起こしました。

石田慶和先生の御書物を再読しましたが、お蔭様で、これが、ここ三年間の研究成果を書き下ろす契機になったのです。

ついでには初講前に、宗門中枢部関係先に赴くことになり、三年前より総長が宗門内に「本願、本願成就のみ教えが現代社会に伝わって行くようにするには、一切の聖域を設けず、宗門人が応分の責任を果たすべき」との御言葉に応えるものとなったことでした。

初夢がこんな具合に具体化するとは思っても見ませんでした。合掌。